

園長先生に望むこと

忙しすぎる毎日

園長室の掲示板に、園長先生の予定が記入されています。

○月○日(月) ○○小学校

○月○日(火) 校長会

と、一週間がほとんどどうめられ、その上に一日に三つぐらいの予定がたてられている月まであります。本当にお忙しい、お気の毒なような日程です。

「明日は何時までどこで、何時までどこにいます。最後は○○館ですから、何か用があったら電話をして下さい。」

それから、これとこれをして、役所に連絡しておいて下さいね。あと、聞いておくことなかったかしら」

と、留守中の注意を忘れずに

して下さい。

「何かなかったかしら」と問はれながらお出かけの後、あれはどうするのだった、あれを聞いておくのだったと迷うことばかり。御相談して、処理出来たらもう少し、上手に出来たかもしれないと思うこともしばしば。今日も一日を反省しながら、園長室に押しかけて行って話合っていただけないことを残念に思うのです。もう少し幼稚園にじっとしていて下さったらと。

むずかしい仕事の責任

留守中の仕事を気にしながら終って、日常保育のこまかいことを、園長先生に御心配かけないようにしておこうとみんな心がけているのですが、若い者

ばかりの仕事に、不安をお感じになるのか、一つ一つのことにご心配をかけてしまうのです。「誕生会の用意出来ている」委員会の通知出した「こうしようと思っていたのに、こういうようにしたのね」と、忙しい園長先生に『もう御安心なさってください、御留守の間の事は皆で注意していますから』と申し上げて、安心していただけないだろうかと、自分の力なきを感じるのです。

責任を持たせてながめていてそして注意していただけたらと思うのです。

明るい毎日

幼稚園で自慢したいことはいろいろありますが、いつも口にしてみたいことは「職員同志(九名)が本当に仲の良いこと」です。こうした雰囲気も、園長先生の雰囲気と、直接に結

びついているからでしょう。「いつも云ってるでしよう、誰れ、あんなことをしたの」子どもを帰したとたんのお小言。

『これからしようと思っていたのに』とか『今、こんな大切なことをしているのに』とか、何となく口惜しくなっても、五分もたたないうちに、注意したことも、何もけろりとして、いつものように明るく話しをしているのです。これが、何時間も何日もぐちぐちと云はれたり、何となく遠まわしに云はれたりしたら、どんなに暗い感じがするだろう。私たちの生活の一番大切な明るさをみんな保っていることを本当にうれしく思っているのです。

× × ×